

「真理に立ち、虚偽に立ち向かうこと」

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَقُلْ جَاءَ الْحَقُّ وَزَهَقَ الْبَاطِلُ إِنَّ الْبَاطِلَ كَانَ زَهُوقًا

قَالَ رَسُولُ اللَّهِ صَلَّى اللَّهُ عَلَيْهِ وَسَلَّمَ:

اللَّهُمَّ لَكَ الْحَمْدُ أَنْتَ نُورُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ ... أَنْتَ الْحَقُّ، وَوَعْدُكَ

الْحَقُّ وَقَوْلُكَ الْحَقُّ، وَلِقَاؤُكَ الْحَقُّ، وَالْجَنَّةُ حَقٌّ، وَالنَّارُ حَقٌّ، وَالتَّيْبُونُ

حَقٌّ، وَالسَّاعَةُ حَقٌّ ...

兄弟、姉妹の皆様にとり祝福された金曜日でありますように！ 私たちの預言者（彼の上に祝福と平安あれ）は、ヒジュラ（移住）を余儀（よぎ）なくされて十年ののち、ご自分の軍勢と共にマッカに凱旋（がいせん）なさいました。アッラーのみ使いは、この祝福された町に生まれ育ち、この町を慕（した）っておられました。彼は憧（あこが）れのまなざしでこの町を一望（いちぼう）し、それから情熱と興奮をもってアッラーの館へ向かいました。タワーフを行ったあとで、次のアーヤを朗唱なさいました。「（今や）真理は下り、虚偽は消え去った。本当に、虚偽は消えるさだめにある。」それから彼はカアバに入って清め、周囲にあった偶像を取り除いたのであります。

尊敬すべき信仰者の皆様！ 人類の歴史における真理と虚偽の闘いは、アダムの二人の息子ハビールとカビールに始まりました。ハビールは服従と誠実さによって真理の側に立ちましたが、ガビールは自らの欲望と嫉妬ゆえに、虚偽を選びました。終末の日にいたるまで、ハビールは善なるもの、徳高きものの指導者となるでしょう。一方でカビールは、自らの犯した殺人ゆえに、邪悪なるものの象徴として知られることとなるでしょう。

親愛なる兄弟、姉妹の皆様！ 真理とは、タウヒードの信仰にあります。アッラーへの信仰、アッラーへの服従にあります。主のみのしもべたることにあります。虚偽とは、アッラーの存在とその唯一性を否定し、主に比肩（ひけん）する何ものかを配（はい）することです。主以外の何ものかに仕（つか）えることでもあります。それは、欲望と欲求のしもべになることでもあります。それは主の、無数の祝福に目を閉ざし、耳を塞（ふ

さ）ぐことであります。

真理とは、私たちを人間らしくさせ、世界を生きるにふさわしい場所とする、イスラームという明白な宗教の原則と美しさに与えられた命そのものであります。虚偽は、私たちの崇高な宗教とは両立しえない信念であり、概念であります。それはイスラームとは相反（あいはん）する行いであり、人々の名誉と尊厳を害する悪であります。

真理の道とは、預言者たち、殉教者たち、そして善良な、誠実な信仰者たちの道であります。この道の終わりに、永遠に祝福された楽園が広がっています。虚偽の道とは不信者の道であり、非難されるべき道であり、正義から逸脱した悪しき者の道であります。その道の終わりは破滅と喪失の巢窟（そうくつ）たる地獄へとつながっています。

兄弟、姉妹の皆様！ 真理の道にとどまる者は、抑圧され、虐（しいた）げられた人々の希望となります。虚偽と結託（けったく）する者は、往往（おうおう）にして弾圧と抑圧者の代弁者（だいべんしゃ）となります。自らの心を真理に据（す）えた者は、高い価値のために戦います。虚偽を担（にな）う者は、自分の利益や自己愛を何よりも優先させるのです。真理を愛する者が、地上を生きるにふさわしい場所にしようと建設的に働く間も、虚偽のしもべとなった者は扇動や悪意、嘘いつわり、中傷、害毒を求めています。真理によって立つ者が、地上に平和と安定、正義をもたらそうと努力する間も、虚偽に従う者は血と涙を流させ、町という町を破壊し、人々の意識や心を傷つけているのです。

ですから、**兄弟、姉妹の皆様！** どのような状況にあっても真理の側に立ち、虚偽に立ち向かい、真理の声を上げ続けましょう。あきらめることなく、お互いに真理と忍耐を勧め合ひましょう。真理に仕え続けるかぎり、アッラーのご加護と慈悲が私たちと共にあるということを、忘れずにいましょう。私たちが真理を選び取り、真理を掲げ続ける限り、私たちが虚偽によって傷つけられることは決して起こり得ないでしょう。